

公立37万円、私立104万円。高校の初年度にかかる学校教育費です(2016年度「子どもの学習費調査」から)。保護者に重い負担がかかり、アルバイトして学校の費用にあてる高校生もいます。せめて就学援助を受けていた世帯には奨学金給付金を、と求める声があがっています。

(青森県・藤原朱、染矢ゆう子)

高校入学で困窮に

「高校入学準備にこんなにお金がかかるとは思っていませんでした」。青森の県立高校に入学したばかりの娘(15)と中学3年生の息子(14)と青森市内のアパートで暮らす、加藤早苗さん(46)と仮名「は」は、大きくため息をつきました。

娘が通う高校では、入学時納入金(PTA入金会金など諸会費や生徒手帳や写真代、学力診断テスト代など)が約4万円。制服代は約6万3千円。体操着や副教材など物品購入代金が約4万8千円、教科書代1万3千円…。

入学前に17万円

入学前の準備費用だけで約17万円。早苗さんの手取り1カ月分に相当します。少ない貯金を切り崩し、足りない分は年金暮らしの両親に頼み、ようやく用意しました。

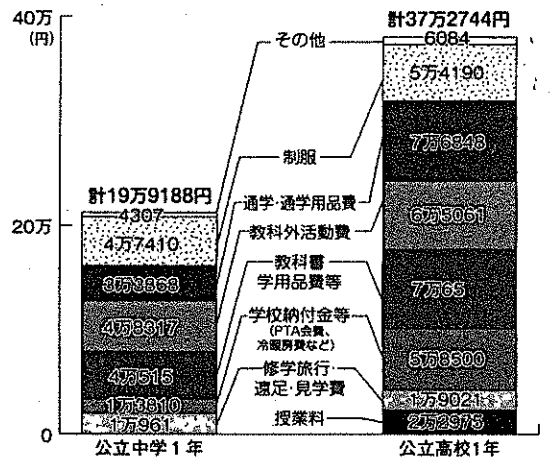
中学までは、就学援助制度で学用品費や制服代も準備できましたが、高校はありません。生

高校の奨学給付金の給付額

生活保護世帯	年収250万円未満の世帯
(公立) 3万2300円	第1子 (公立) 7万5800円 (私立) 8万4000円
(私立) 5万2600円	第2子以降 (公立) 12万9700円 (私立) 13万8000円

父母どちらか1人が働き、高校生1人(16歳以上)、中学生1人の4人世帯(国のモデル世帯)の場合

高校でさらに増える教育費負担



(文部科学省「子どもの学習費調査」2016年度から)

中学で切れる就学援助

奨学給付金の拡充せひ

生活保護世帯と住民税非課税世帯を対象にした返済不要の「高校生等奨学給付金制度」は、年収300万円余の早苗さんは対象世帯にはなりません。

「入学後に支払わなければならない経費もあります。物価が上がり、食費を節約するにも限界。ダブルワークするしかないと考えています」

青森県生活と健康を守る会の神江美事務局長は、「入学や進学をきっかけに生活が困窮する家庭からの相談が増えます」と指摘します。

収入減と重なり

同市内に住む母親(40)は、夫が病気になる収入が激減した時期と、娘(現高校2年・16歳)の高校入学が重なりました。

入学費用はカードローンでお金を借り、制服は近所の卒業生から譲ってもらいました。入学後は、諸経費や高校から持たせた携帯電話代、昼食代など用意

支給増へ国が支出を

全国学校事務職員制度研究会 近藤満さん
埼玉県立高校学校事務職員

「親がどんな環境になってもお金の心配をせず、学校へ通えるような社会になってほしい。夫の遺影に目を向けました。」

「高校生になると、家が裕福かどうか経済状態は分かりません。あの頃は、親に負担をかけたかと思う思いが強かった」

こう話すのは、同県三沢市で暮らす会社員の女性(28)。返済が必要な奨学金を借りて高校、短大へ進学。今年、やっと高校の奨学金が完済を迎えます。「私の時は奨学金を借りるしか道がなかったけど同じ苦労はしてほしくないです。教育無償化を願っています」

小中学生の就学援助の支給標準は生活保護標準の1.1倍などとしている自治体が多くあります。家族構成や家賃など生活費

から標準額を算出します。14年度から始まった返済不要の高校の奨学給付金の対象は、生活保護世帯と住民税の所得割が0円の世帯です。住民税の所得割0円の収入を試算したところ、

近隣の市の生活保護標準よりずっと低いことがわかり



ました。高校では、小中学校でかからなかった教科書代や交通費が一気にかかります。それなのに就学援助を受けていた人たちの多くが受けられなくなるのです。勤務校で調べると、就学援助の対象になるような高校生の3割が奨学給付金を受けられません。国の調査でも2割が受けられません。高校の奨学給付金の支給標準をせめて就学援助の条件程度に上げないといけません。金額の引き上げも必要です。年一回、11月下旬の支給では入学時など必要なお金が手元にありません。奨学給付金の財源は所得条件をつけて徴収した高校の授業料であり、財源が限られてしまっています。高校生の教育を受ける権利を保障するために、国がきちんとお金を出すことが必要です。